

八王子地区保護司会 保護司会だより

第 124 号

令和 7 年 12 月 25 日発行
発行 八王子地区保護司会
編集 広報部
電話 042-657-4928

八王子地区保護司会への感謝と連携に向けて

八王子市長 初宿 和夫

八王子地区保護司会の皆様におかれましては、日頃より地域の更生保護活動にご尽力賜り、厚く御礼申し上げます。皆様の献身的な活動は、立ち直りを目指す人々に寄り添い、再び社会の一員として歩みだせるよう支援するものです。こうした支援は犯罪や非行からの立ち直りを支え、地域社会の安全・安心の確保に大きく寄与するものであり、心より敬意を表します。

近年、更生保護活動を取り巻く環境は厳しさを増しており、保護司の皆様が果たされている責務の重さ、その社会的意義、地域に根ざした支援の重要性を改めて強く感じております。

八王子市では昨年度、「八王子市再犯防止推進計画」を改定し、「第2次八王子市再犯防止推進計画」を基に出前講座の開催、啓発活動の実施など、取り組みを開始しております。本計画では、保護司の方々をはじめとした関係団体・機関の皆様との連携を一層強化し、支援を必要とする方々が地域において安心して生活できる環境の構築を目指しています。再犯防止は一朝一夕に成し得るものではなく、地域全体で継続的に取り組むべき課題です。犯罪や非行のない明るい社会の実現に向けた取り組みを、皆様とともに進めてまいります。

皆様におかれましては、引き続き、本市の再犯防止施策に御協力をお願いするとともに、八王子地区保護司会の更なる御発展、並びに、皆様の御健勝を心から祈念申し上げます。



令和7年度更生保護事業関係者顕彰



令和7年度多摩地区保護司会連絡協議会受彰祝賀会 令和7年12月12日(金) ホテルエミシア東京立川
当日は受彰者にご来賓、多摩連理事等、総勢100名が集い和やかな会になりました。写真は八王子地区から出席した皆さんです。
前列左から、吉原直深立川支部長、田中恵美子東京更生保護女性連盟副会長、土方三男多摩地区保護司会連絡協議会会長、
杉山弘晃東京保護観察所長、小山典子東京都保護司会連合会副会長、前田善一郎多摩連顧問、新野照代八王子地区保護司
後列左から、宮野園恵、田畑修、中川常彦、佐藤順一、河井孝之、本田良久、八木光司、尾崎敏夫各八王子地区保護司

叙勲・褒章

瑞宝双光章

新野 照代、深須 達男、河井 孝之

藍綬褒章

本田 良久

法務大臣表彰

両角 穰、大貫 雅之、黒沢 栄、原島 元義

全国保護司連盟理事長表彰

井上 太一、石川 泰、印南 幸子

関東地方更生保護委員会委員長表彰

奥野 佳代子、八百屋 伴声、米山 泰夫、戸谷 宰之、橋山 力也、松本 久美子
加藤 正道、佐藤 ますみ、柴田 健彦

関東地方保護司連盟会長表彰

小西 智子、山本 法史、兒島 直子、立石 晴美

東京保護観察所長表彰

大山 義順、村尾 博司、黒木 松男

東京保護観察所長表彰

内田 満、若林 修

東京保護観察所長感謝状 家族功労者

大久保 奈美、柴田 妥子

第75回社会を明るくする運動

～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域の子カラ～

令和7年度 第6ブロック 保護司組織運営連絡協議会

「社会を明るくする運動について考える」

10月15日東京たま未来メッセ

東京たま未来メッセ会議室において、10月15日（水）令和7年度第6ブロック保護司組織連絡協議会が開催されました。今年度は八王子地区保護司会が当番を務め、会場準備や受付、案内などの運営を担当しました。

協議会は昨年引き続き「“社会を明るくする運動”について考える」で、（1）新たな取組、（2）実施結果、（3）運動の意義の共有・伝承、（4）その他について各地区から報告があり、活発な質疑応答が行われました。八王子地区からは小俣博照地域活動部長が報告と質問への応答を行い、尾寄総務部長が司会および質問を担当しました。

協議会には杉山東京保護観察所所長、吉原立川支部支部長、東京都保護司会連合会の野崎・小山両副会長など多数の来賓が出席し、熱心に協議に耳を傾けられました。

杉山所長からは、行政連携や広報の多様化等の各地区の工夫を共有し合い、より効果的な運動につなげていく為の今後の取り組みに向けての提言があり、野崎副会長からは、工夫を重ね活動する各地区への敬意と、保護司としての社会的使命を誇りに、仲間と支えあいながら活動を続けてほしいとの講評がありました。

最後に、次年度当番である町田地区保護司会の挨拶をもって閉会となりました。

（書記 日野出美智子）



佐藤八王子地区保護司会長による開会あいさつ

駅頭一斉広報・クリーン活動

7月5日

延べ参加人数184人を集めて市内5ヶ所（JR八王子駅北口・南口、京王八王子駅、高尾山口駅、南大沢駅）に於いて、通行中の方に、啓発物資を配布し啓発活動を行うとともに清掃活動を実施しました。



みんなに届け！私たちのメッセージ

7月21日八王子市芸術文化会館いちょうホール

参加人数367人を集めていちょうホールに於いて初宿和夫市長をはじめ多くのご来賓の方をお招きし、第75回社会を明るくする運動「みんなに届け 私たちのメッセージ」が開催されました。

はじめに初宿市長より作文コンテスト最優秀賞内田実来さんと優秀賞5名の方に表彰状が授与された後、作文が発表されました。

続いて「若者の薬物問題から見えてくる社会の課題」と題して国立精神・神経医療センターの松本俊彦先生の講演が行われました。その後、八王子ダルクによる体験談があり、薬物使用の問題を広い視野から見つめ直す良い機会となりました。最後に松が谷中学校吹奏楽部による演奏が行われました。

（広報部 清水隆）



関係各団体の展示

第 75 回社会を明るくする運動

八王子実施委員会作文コンテスト最優秀賞

今できることを、私たちがやる

由井第一小学校 6年(現在 打越中 1年)

内田 実来



みなさんは、犯罪や非行について、どう思いますか？私は、やってはいけない、悪いことだと思います。なので、私たちにできることはないか、考えてみました。

私が考えたことは、三つあります。一つ目は、「犯罪、非行は悪いことであり、してはいけない。ということを、しっかりと伝えてみんなで声をかけ合っていくこと」です。このようなことをしていくことで、幼いころからしてはいけない事を知ることができ、犯罪や非行をする人が少しずつ減っていくと思ったからです。

二つ目は、「犯罪、非行に走る多くの原因『いじめやぎゃくたいでのストレス、貧困』などを減らす」ということです。私は、犯罪や非行をする人には、なにか原因があると思います。なので、少しでもその原因や理由を減らすことができるといいなと思ったからです。私は、五年生のときに、友達関係でなやんだことがありました。そのときに、担任の先生やお母さん、お父さんに相談に乗ってもらい、とても心が軽くなり、感謝の気持ちでいっぱいでした。なので、もしなやんでいる友達がいたら、ぜひ、相談に乗ってあげたり、

「大じょうぶ？何か私にできることある？」

などと、やさしい言葉をかけてあげてください。私は、この言葉に救われました。このように、子どもにもできる取り組みがあるので、さがしてみてください。

三つ目は、「あいさつや笑顔で、みんなを明るい気持ちにする」ということです。二つ目にも書いたように、友達関係でなやんでいたときに、相談に乗ってもらう以外にも、心があたたかくなった出来事がありました。それは、「あいさつ」です。

私がなやんでいたときは、正直にいうと、学校が苦手でした。楽しい事もあったけど、悲しい事もたくさんありました。でも、そんなときに、家族やちいきのひとたちが、

「おはよう」

「今日の学校はどうだった？」

「おつかれさま」

など、他にも色々なあいさつや、やさしい言葉をかけてくれたおかげで、心が明るく、あたたかい気持ちになったのを覚えています。

この出来事をきっかけに、私は前よりもたくさんあいさつをするようになりました。

あいさつは、「周りを明るくできるまほう」のようなものです。みなさんも、これを機にあいさつをすることを気にかけてみてほしいです。

私たちが今できること、それは、

「みんなで声をかけ合い、犯罪、非行をする原因を少しでも減らし、あいさつや笑顔で、周りを明るくする」ということです。

これで、私が考えたことは以上ですが、子どもから大人まで、他にもできることはたくさんあるはずです。ぜひ、みなさんもさがしてみてください。私も、自分にできる取り組みを、さがし続けていきます。

最優秀賞受賞者インタビュー

広報部 大久保 隆 / 荒木 美奈

荒木 まず受賞おめでとうございます。素晴らしかったと思います。この作文を書いたのは小学生の時なのに、よく考えていて、感心しました。

内田 ありがとうございます。

荒木 この作文コンテストに応募するきっかけは何でしたか？

内田 学校で募集の手紙が配られて、作文を書くのが好きなのと、調べてみて、自分でも書けそうなテーマだと思って、書いてみました。

荒木 最近、気になるニュースはありますか？

内田 いじめとか子供の自殺とか悲しいというか、よくないなと思います。

荒木 作文の中にも内田さんも小学校の時に寂しい思いをした経験があったから、この作文を書いてみようって思ったのかな？

内田 はい。

荒木 作文の中に犯罪や非行はやってはいけない悪いこと、それに対して私たちができることはないかと、考えたことがありますね。一つ目は、しっかりと伝えてみんなで声をかけ合っていくこと。とあるけれど、実際に意識していますか？

内田 はい。学校でも友達にあったら「おはよう」とか自分から声をかけます。

荒木 そして、考えたことの二つ目は、いじめや虐待のストレス、貧困とあるけれども、例えば、貧困っていうのはどうしたら解決できると思う？

内田 暮らしの何かサポートするセンターみたいな施設を増やすのとか、ホームレスの人とかにも、困っていることを助けてあげるとか。助け合うのが大事だと思います。

荒木 そうだね。お金がないという理由で強盗や詐欺とか事件を起こすから、「貧困」というのは、気持ちの上でも貧しくなっちゃうよね。社会がそれを生み出してしまっているのですよね。

荒木 保護司って知ってましたか？

内田 いえ、知りませんでした。

大久保 保護司というのは、少年院とか刑務所を出てきた後に、その人たちがまた元の生活に戻れるように、再度犯罪をしないようにいろいろ援助する人。実際には保護観察といって、面接をして、悩みごとの相談に乗ってあげたり就職先を探してあげたりとか、更正できるように支えてあげるボランティアです。また、犯罪をしないような声かけや、まさにこの「社会を明るくする運動」もその一環です。

荒木 私たち保護司は、犯罪をしてしまった人にこれから立ち直ってもらいと思っているのだけど、どんな声かけをすればいいと思う？ 参考に聞かせて。

内田 やはり、理由を聞いてあげて、その理由を解決するためにどうしたらいいかを話すとか。

荒木 そうだね。本当はそんなつもりではなかったけど、やってしまったっていう人もあるよね。だからいじめひとつにしても、いじめるつもりもなかったのに発展してしまうこともあるよね。

内田 いじめの境界線みたいなのは相手がいじめだと思ったら、「いじめ」だと思っています。以前に道德の授

業で、「いじり」と「いじめ」の違いで「いじり」は相手が笑って許せる範囲内のことで「いじめ」は笑って許せないこと、無理に顔を作って心ではほんとに嫌に思ってるとか。ちょっとでもいやって思ったりみじめだって本人が思ったりしたらいじめだと思います。

荒木 そうだね。今、周りの友達はほとんどスマホを持っていると思うけど、たとえば、友達の中にスマホを持っていない子がいたら、どうする？ 遊びに行く約束とかの連絡をどうやってする？

内田 予定を聞いて、遊べるようだったら、時間と場所を決められることは決めて、もし来なかったら行けないってことでいいねと、前もって話をして、決めておきます。

荒木 スマホの問題って、いろいろあるよね。闇バイトとかなくならないのは、なんでだと思う？

内田 私たち子どもだけでは、解決はできないから。大人たちがしっかりしてほしい。

大久保 そうだね。SNSでつながって、それを信じ込んだじゃうんだよね。男性なのに女性のふりをしたりとか、歳を偽ったりとか。実際に会ってない人のことをどうして信じ込んだじゃうのかな。

荒木 現実で友達ができなくて、ネットの中では、自分が出せたり、それで友達になった気になるんだよね。しかし、もしかしたらそれが悪い相手で、しかも大人かもしれないものね。子どもたちを事件に巻きこんでいるのは大人なんだよね。現実での友達関係がうまくいくといいのかな。

荒木 尊敬している人は誰ですか？

内田 お母さんです。

荒木 お母さん、嬉しいですね。どんなところを尊敬する？

内田 仕事がすごい好きで、遅くまで仕事してたり、がんばっている姿です。

そして、夕飯はお父さんが作ってくることが多いです。お父さんの仕事が食品関係で、料理が美味しいです。野菜とかもちゃんと食べるようにとか気をつけてくれます。

荒木 家族、みんな仲良くっていいですね。

大久保 ご両親は今回、この作文コンテストで最優秀賞をとったことは喜んでいて？

内田 はい、とても。表彰式の時も来てくれました。とても緊張しました。

大久保 それはそうだね！ 本当におめでとうございませう！ これからも部活や勉強もがんばってくださいね。

荒木 今日はありがとうございました。

内田 ありがとうございました。

活動状況報告

民生委員・主任児童委員との合同研修会

令和 7 年10月22日、学校担当委員会は主任児童委員会と合同で、SNSを通じた「闇バイト」の危険性を学ぶ研修会を開催しました。講師は『レイの失踪』を開発した竹ノ内尊行氏で、ZOOMを通じて体験型ワークショップを実施しました。近年、特殊詐欺の被害は増加し、SNS経由で闇バイトに関与する若者が急増しています。

手口は求人サイトやDMを通じて接触し、徐々に犯罪に巻き込まれていきます。背景には経済的困窮や孤独があり、個人情報への漏洩や脅迫により抜け出せなくなるケースが多いです。参加者はスマホ操作に苦戦しながらも協力し合い、SNSの危険性と孤立のリスクを学びました。重要なのは、個人情報を守り、怪しい誘いに乗らず、困った時には必ず相談することです。誰にでも、助けてくれる人が居ることを忘れないで欲しいと願っています。（学校担当委員長 後藤貴弓）



「レイの失踪」ゲームによる闇バイトを体験

研修部管外視察研修

令和 7 年11月21日（金）、研修部主催の保護司管外視察研修が実施されました。施設は昭島市の国連アジア極東犯罪防止研究所です。法務省の所管する施設で国連の犯罪関係の研修所です。世界各国の裁判官、警察官等が約1ヶ月間施設内に宿泊し研修をします。

研修内容は犯罪者処遇等多岐にわたります。施設内も見学し、有意義な研修でした。参加された14名の先生方ありがとうございました。

（研修部長 田畑修）

高尾山学園清掃活動

1月9日（日）午前9時、時折雨が降る中、高尾山学園で清掃活動が行われました。校長先生、副校長先生、保護司会副会長、高尾警察署少年係員、市防犯課職員、保護観察所高尾分区西分区担当の2人の主任官から挨拶を受け、作業を開始しました。

事前に刈られて積まれていた草や落ち葉の回収と側溝の泥かき、窓ガラス拭きの二手に分かれて1時間程取り組み、校庭や校舎が綺麗になりました。副校長先生から子どもたちが窓の美しさを喜んでいると伺い、役に立てて良かったと感じました。今後も少しでも役に立てる活動ができればと思いました。

参加者は、学校2名、警察1名、八王子市2名、保護観察所2名、そして中央分区3名、西分区9名、高尾分区6名、更女3名、BBS3名、対象者2名を合わせて33名でした。

（地域活動部 平方珠実）



高尾山学園での清掃活動の一コマ



参加者：左から三上浩一、真田安弘、一関秀行、八木下輝一、内田満、中川常彦、飯沢宗光、田畑修、児島直子、森屋義政、加藤正道、本吉邦俊、鈴木俊子、林昭雄の皆さん

管外研修に参加して

12月23日、高尾分区の管外研修で千葉県市原青年矯正センターを訪問しました。26歳未満の知的障害、発達障害を有する男子受刑者が、寮生活をしながら社会復帰のための教育や訓練を受ける施設です。社会に出て、自分の力で判断し自己管理できるよう専門の多職種の職員が手厚い支援をしていることを知りました。部屋に鍵はなく半開放になっていること、時計があることもその一環であり、ここの施設の特色であることを石原次長から説明を受けました。また、出所後も、相談を受け入れる体制があるとのこと。彼らにとって安心できる拠り所でしょう。

定員72名、現在32名在所。10人が社会復帰をし、戻ってきた人はいないと聞き、職員の方々の熱意と愛情を感じました。私も青少年たちの信じられる、頼られる大人でありたいと強く思いました。センターの子らの社会復帰を祈りつつ、秋晴れの市原を後にしました。



(高尾分区 池田 章子) 市原青年矯正センター正門にて

新任保護司のご紹介

西分区 高畑ありさ

令和 7 年 9 月 17 日付けで保護司に委嘱されました。これまで、小学校と中学校のPTA会長、青少年対策委員、学校運営協議委員を、現在は育成指導員、そして八王子市防衛協会の会員として、青色防犯パトロールを行っています。会社員です。副業の訪問介護ヘルパーでは、月に約90件の支援をしています。地域の安全安心が国護りと考え、少しでも地域に貢献できればと思います。みなさまからのご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。



かいサポートを受けつつ、懸命に活動を実施しております。

普段は情報通信関連の企業に所属し、「IT技術で社会を豊かに」を社是としております。会社員と保護司ではアプローチは異なりますが、どちらの立場からも地域社会への貢献に全力を尽くす所存です。

皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

東分区・紫翠苑 鶴田俊男

本年 4 月 1 日付けで更生保護施設紫翠苑の職員になり、同年 9 月 17 日付けで保護司を拝命し、紫翠苑がある八王子地区保護司会に配置されました。どうぞよろしくお願いいたします。



本年 3 月までは、保護観察所で働いていたのですが、保護司の拝命を受け、より身が引き締まる思いがしました。保護司さんが作った紫翠苑の事業をより発展させたいですし、紫翠苑の地元である八王子地区保護司会や、八王子市にも微力ながら貢献したいと考えています。保護司の皆様には引き続きのご指導、ご鞭撻を賜りたくお願いいたします。

みなみ分区 市川大介

私が保護司を引き受けたのは、伯父の勧めに加え、生まれ育った地元に貢献したいと考えたからです。保護司が担う役割の重要性和、社会に与える影響の大きさに、今、身の引き締まる思いです。



着任間もない中、早速、保護観察を担当することとなりました。手探りの日々ではありますが、先輩保護司の皆様の温

新任保護司の皆さんからの質問と先輩からの回答

Q:初めて対象者に会うときにどんな顔で行けばよいのでしょうか?軽んじられたりしないように毅然と振舞うべきなのでしょうか?

A1:「特別なことは意識しませんが、どうしても『指導する側・される側』という立場の違いによる緊張感が生まれてしまいます。だからこそ、逆に上からではなく、一人の人間として相手を尊重し、対等に向き合うことを意識しています。」

A2:「普段の自然な笑顔で臨みましょう。肩肘を張らないで…」**「対象者についての資料をよく読んでおきましょう。」**

Q:対象者と口論になったりしませんか?そんなときどうしたらいいでしょう?

A1:「対象者と口論になったことはないですが、環境調整時に身元引受人から強い口調で責められたことがあります。引き受け意思の確認に1時間くらいかかりました。こちらの話を聞いていただけない状況でしたが、仕方がないのでこちらは感情的にならず、あくまで保護司としての役割に徹して、冷静かつ淡々とした対応を心がけました。」

A2:「口論をしないで行きましょう。受け入れることを大きな根底に置きましょう。」**「怒ると叱るの違い、これは難しいですが、深呼吸しましょう。」**

Q:対象者が再犯をしてしまうこともあると思います。それを考えると自分で良いのかと不安になりそうです。

A1:「担当している間に若い対象者が無免許運転で事故を起こしたこと、仮釈放中の対象者が酒に酔って暴行事件を起こしたこと、等の経験があります。がっかりしますが、自分を責めたことはありません。」

A2:「再犯をするか更生するかは、環境・支援も影響はしますが最終的には本人の意思次第です。私たちは道を定めることはできず、伴走することしかできません。『絶対に再犯させない』と気負うよりも、『対象者が社会とつながるための接点(居場所)であり続けること』。それが結果として、再犯防止につながるのではないかと考えています。」

A3:「再犯は、十分にあることを意識しておきましょう。自分を責めることは、しないでおきましょう。」

Q:保護司であることによって嫌な思いをしたことはありますか?逆にうれしかったことはありますか?

A1:「仕事や周囲のスケジュールを調整してもらい面接時間を作り出したのに当日すっぽかされると、やはり徒労感がありますし、悲しい気持ちにはなります。一方で、面接を重ねる中で、ふとした瞬間に本音を漏らしてくれたり、信頼してくれている様子が見えたりした時は、とても嬉しい瞬間です。」

A2:「うれしかったことは、刑期を終えた対象者から、『月に1回、働いたお金から施設に寄付をしている』という話が始まったときです。」

A3:「嫌なこと、約束が直前にキャンセルになったりすること。」「良かったこと、対象者から信頼されること。真面目に仕事に通っていること。」「八王子の保護司の方との出会いは、宝物です。八王子の街の良さが分かります。」

Q:対象者が次の面接の日時を2日前に連絡してきました。市民センターの予約ができない場合があるので、その場で都合を合わせて決めたいのですが、どのように話したらよいでしょう。対象者は学生でADHDで通院しています。

A1:「忘れやすい特性のある対象者の場合は、面接日をパターン化すると双方の負担が減ります。ただし仕事などの予定もあると思うので、無理のない範囲で“基本は第2火曜”のような定型を作りつつ、必要に応じて変更する方法が良いと思われます。また、前日に『明日は面接ですね』とショートメール等でリマインド(フォロー)を入れるのも、お互いのために有効な工夫だと思います。」

A2:「集まりやすい場所、私は近くの市民センターを利用しています。」**「人により、さまざまな場所を利用、柔軟に考えても大丈夫です。」**

Q:引受人や保護者と町中で偶然会って話した場合、保護観察所に報告しますか?

A:「ただの挨拶や短い世間話程度であれば、私は処遇上の報告事項にはしていません。むしろ、対象者のプライバシーを守るため、周囲に人がいる場合などは、こちらからは安易に声をかけないように配慮しています。」